

同志社香里超絶の舞い



気合のこもったダンスで4年ぶりの優勝を勝ち取った同志社香里(横浜市西区のパンフィコ横浜)(福島範和撮影)



ビッグクラス

横浜市西区のパンフィコ横浜で17日に行われた高校ダンス部の日本一を決める「第10回日本高校ダンス部選手権(スーパーカップダンススタジアム)」のビッグクラス(13人以上)決勝。府内からは15校が出場し、同志社香里が4年ぶり

主催 産経新聞社、ストリー
トダンス協会
共催 BSフジ、関西テレビ
放送
後援 スポーツ庁、全国高等学校体育連盟ほか
特別協賛 エースコック
オフィシャルパートナー
大塚ホールディングス
運営統括 ブルースプラッシュ

に優勝したほか、府立登美丘も準優勝。堺西、今宮、久米田の府立3校が優秀賞、府立泉陽が産経新聞社賞に輝いた。

同志社香里は「黒薔薇」をテーマに糸乱れぬダンスで客席を魅了し、舞台いっぱい「漆黒のバラ」を咲き誇らせた。優勝が告げられると、メンバー全員が「やったー」と喜びを分かち合った。

4年ぶりの優勝に、部長の久崎晴子さん(3年)は「優勝をずっと夢見ていたので、本当にうれしかった。苦勞した部分もあったが、努力がこういった形で報われてうれしい」と笑顔を見せた。

準優勝の登美丘は、「バスを披露し、会場を大いにフリーな女性たち」をテーマに、タレントの平野ノラさんが演じるキャラクタ、バブリー美奈子をイメージした派手な衣装で登場。1980年代のヒットソングに乗せて、懐かしさの中に新鮮さを取り入れた元氣とパワーあふれるダンス

池田 躍動感で観客わかせる

6年ぶり2度目の出場となった池田は「オタクとアイドル」をテーマにしたコ



「オタクとアイドル」をダンスで表現した池田(福島範和撮影)

ミカルなダンスを披露。オタクの若者たちが踊っていると、3人の「アイドル」が加わり「あこがれのアイドルと一緒に踊る」という場面を表現した。ペンライトも登場し、躍動感あふれる動きで観客をわかせた。

アイドルを演じた部長の河上紅音さん(2年)は「プレッシャーよりも、『全国でみせる』という気持ちの方が強かった。会場のみなさんに笑顔になってもらうことを心がけた。心の底から楽しめました」と満足そうだった。

バスを披露し、会場を大いにわかせた。キャプテンの林沙耶さん(3年)は「準優勝もすばらしい賞ですが、3連覇を狙っていたのでやっぱり悔しい」と話した。今宮は「勇気と正義」をテーマに、人形浄瑠璃「文楽」をイメージしたダンスで優秀賞に輝いた。文楽とダンスをコラボレーションさせたエネルギーなパフォーマンスは観客を魅了した。部長の平岡志帆さん(2年)は「入賞が目標だったのでうれしい。後輩たちには今回以上の結果を出してほしい」とエールを送っていた。